

2022年度 ピアサポート活動報告

I ピア・サポート制度

ピア・サポート制度は、2014年度より本学初めての試みとして開始された。本制度は、学生による学生のための支援であり、学生同士で勉強や進路などの学生生活のことについて尋ねたり相談したり出来るものである。本制度の趣旨は、学生が、学内の業務に従事し報酬を得ることで、職業意識・職業観を育むと共に、学生に対する経済的な支援を行うこともあるが、更には、将来医療人を目指す学生が、患者との信頼関係を築く上で不可欠なコミュニケーション能力やホスピタリティを養うことが期待出来、その上で、公共的精神、積極性、広い視野や世界観の涵養など人間的成長を促すことを目的とする。9年目である本年度は、2022年4月より活動を開始した。

II 2022年度活動内容

2022年度のピアサポーターは医学科6年(女性)、医学科6年(女性)、歯学科6年(男性)、歯学科6年(女性)の学生、口腔保健学科4年(女性)、歯学科3年(女性)が2021年度から引き続き担当した他、歯学科4年(女性)、医学科3年(男性)、歯学科3年(女性)、検査学科3年(女性)、看護学科2年(女性)の学生が2022年度から新たに担当となった。

II-1 今年度の活動方針について

2020年1月から新型コロナウイルス感染症が国内で蔓延したため、東京医科歯科大学は2020年度の各学科の講義や実習の形態を大きく変更し、オンライン講義への移行、実習の縮小などを実施した。これにより学生の学習環境が変化し、人との交流の機会も減少したことに伴い、2020年度以降はこれらの環境の変化への適応をサポートしてきた。2022年度は6月に本学の段階別活動制限がレベル0.5へ移行したことを踏まえ、3月に開催された「ぴあのわ2022」へは対面で参加した。

II-2 相談業務

2019年度は5号館地下1階の投書箱とメール、対面で相談受付を行っていたが、2022年度は2020、2021年度に引き続き、感染拡大を防ぐため対面での受付は行わず、メールとTwitterの質問箱を使用した相談業務を行い、2022年度の相談件数はメールが1件、Twitterの質問箱が5件となった。具体的な相談受付方法は、メールはscenter.stc@tmd.ac.jpに相談内容を送信していただく形をとった。Twitterの質問箱は、2021年6月より新たに作成されたピアサポーター公式のTwitterアカウント(ID:TMDUpeer)において、匿名での相談受付を実施。質問や相談が投稿された場合には、複数名のピアサポーターの同意を得てから回答するという旨のルールを作成している。

II-3 ピアサポート通信の作成

2020年度に引き続き、学生に有益な情報を届けるため、ピアサポート通信と題したメールマガジンを不定期に学内メールで配信した。今年度は全部で2回配信し、バックナンバーをピアサポーターのwebサイトとWebClassに掲載した。

※ピアサポーターのwebサイトに掲載したピアサポート通信のバックナンバー一覧

ピアサポート通信第13号 - 医師国家試験対策について

ピアサポート通信第14号 - 低気圧に負けない生活習慣

II-4 学生生活に関するアンケート調査の実施

2020度から引き続き、学生生活に関するアンケート調査を実施した。それぞれのピアサポーターが、学生生活に関して質問項目を考えた。今年度は授業や部活動、学生間の交流、アルバイト、東京工業大学との統合といった5つの項目についてアンケートを実施した。回答期間は2022年12月27日から2023年1月27日までとした。学内メールやピアサポーター個人のLINEなどで周知を図り、99名から回答を得ることができた。アンケートの集計は現在行っているところであり、2023年度中にピアサポーターのホームページに掲載予定である。

II-5 「ぴあのわ（全国大学ピアサポーター合同研修会）」共催

東京大学、東京工業大学、東京医科歯科大学の3大学による共催で、「ぴあのわ2022 in Tokyo（以下ぴあのわ）」を実施した。本学からはピアサポーター5人と担当教職員3人が参加した。

第3回 ぴあのわ

概要 共催 東京大学、東京工業大学、東京医科歯科大学

会場 東京工業大学 大岡山キャンパス（対面開催）

期日 令和5年3月11日、3月12日

プログラム

3月11日

12:30 - 13:00 受付

13:00 - 13:30 開会式

13:50 - 15:20 分科会

15:40 - 17:10 各校の活動紹介

17:30 - 18:30 交流会

3月12日

09:30 - 11:30 全体会

11:40 - 12:20 閉会式

各プログラムの詳細

開会式 本校ピアサポーター1名がぴあのわ全体の概要、流れについて説明を行った。

分科会① 「本当に助けを必要としている学生に手を差し伸べるためには」

参加者を3グループに分け、各グループで「支援の対象となるモデルケース」と「モデルケースに対して私たちはどのような活動ができるか」についてディスカッションを行った。分科会後は参加者へ振り返りシートの共有を行った。

分科会② 「目指せ、ストレス対処の達人！ ～自律訓練法入門～」

東海大学講師の谷木龍男先生をお招きし、単純椅子姿勢での自律訓練法というリラクゼーション法を練習した。分科会後は参加者への今後の練習機会の紹介をメールにて行った。

各校活動紹介および交流会

本校は聴講者として参加し、各大学が発表していた様々な企画を持ち帰り、今後の活動への参考とした。

全体会

岡檀先生の「自殺希少地域の研究から得られた気づき～人間行動科学を取り入れた対策の重要性と有効性～」の講演を参加者全員で聴講後、本校ピアサポーター1名が活動紹介を行った。また、当日寄せられた質問に関して岡檀先生、東京工業大学の齋藤憲司先生、東京大学ピアサポーター1名、東京工業大学ピアサポーター1名と共にパネルディスカッションを行った。

閉会式

本校ピアサポーター1名が司会として会の進行をつとめた。また、本校ピアサポーター1名が「2日間の振り返り」としてぴあのわの感想などを全体で共有した。

III 2022年度の活動を振り返って

今年度は、2020年度に引き続きコロナ禍の影響でオンラインでの講義が行われていた一方で、実習等では対面式の授業が再開しつつある状況となった。ピアサポーターは、Twitter 質問箱での相談対応とピアサポート通信での配信を継続するとともに、対面授業の増加に合わせた学生生活について新たなアンケート調査を実施した。また、ぴあのわ2023に東京大学、東京工業大学のピアサポーターと主催校として参加し、全国のピアサポーターとの交流や会の運営を行った。また、対面での新生活を想定した豆知識の発信など、学生生活に合わせた新しい活動も行った。2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に縮小し、対面活動が増え、ウィズコロナとしての新しい生活様式に移行していくことが予想される。従って、これらの活動は今後も継続しつつ、新しい生活様式に合わせた学生生活のサポートを考え、実行していきたい。

ここ数年の課題であったピアサポーターの認知度に関しては、コロナ禍に対応した活動やSECA awardへの参加を通して、少しずつではあるが高めていくことができていると考える。今後も学生の実情に寄り添った活動を継続することでさらに認知度を向上させたい。

